

表現から〈ボランティアの価値〉を考えるアンケート調査報告書

日本ボランティアコーディネーター協会 ボランティア報道アクションチーム

1. はじめに

JVCA の事業は、理事会や事務局のほか、運営委員会を設置し、専門委員会やプロジェクトチームに分かれて事業等を進めている。2020年5月の運営委員会において、ボランティア報道ガイドライン作成チームの発足が決まり、活動を開始。災害に関するマスコミ報道で、ボランティアを「派遣」として使用されたり、ボランティアを理解する記者が文章をしっかりと書いても新聞社内の〈整理部〉で「慰問」や「奉仕活動」にされたりしてしまう問題が挙げられた。マスコミ報道の問題ではないが、使用従属性が伴う労働との区別があいまい化されやすい「有償ボランティア」という表現はやめよう、というアクションなども含めて取り組むこととなった。

2. 調査概要

この度の調査では、2022年12月、「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会(JVCC2022)」で「えっ、その表現って、どうなの？言葉から考えるボランティアの価値」分科会を開催し、その中で扱った「奉仕」「慰問」「ボランティアの活用」「ボランティア派遣」「ボランティア“さん”」「ボランティアポイント制度」「有償ボランティア」のそれぞれについて、「とてもモヤモヤする」「少しモヤモヤする」「どちらかと言えば気にならない」「全く気にならない」「よく分からない」を選択できるようにした。

また、「その他、ボランティアに関してモヤモヤする表現や言葉」と「その他のご意見」も合わせて回答を求めた。

なお、今回のアンケートは、JVCA会員のメーリングリストやボランティアコーディネーション力検定1・2級合格者のSNSコミュニティに対して行ったため、調査対象には偏りがあることを付記する。

・調査対象及び期間

① 対象：JVCA会員メーリングリスト登録者 424人 ※複数のメルアド登録者あり

期間：2024年1月13日～1月20日

② 対象：検定1・2級合格者 Facebookグループ登録者 104人

期間：2024年1月20日～1月27日

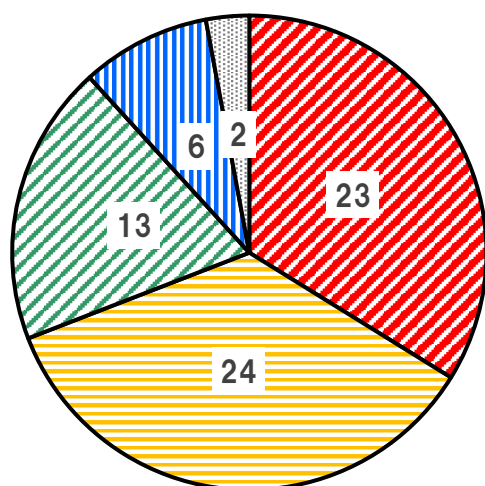
・回答者数 68人

3. 回答結果

以下の7つの表現に対する受け止め方(とてもモヤモヤする～全く気にならない)の結果と、チームで検討した各表現に関する“違和感の正体”を報告する。

(1)「奉仕」について

「ボランティア」は対等で主体的なもの、「奉仕」は奉り仕えるもので、上下関係や強制性を感じる。上下関係や主体性が弱い強制的な活動を「奉仕」活動と呼ぶことには違和感はない、などの自由記述があった。



- ☐ とてもモヤモヤする
- ☐ 少しモヤモヤする
- ☐ どちらかと言えば気にならない
- ☐ 全く気にならない
- ☐ よく分からない

【回答ごとのコメント】

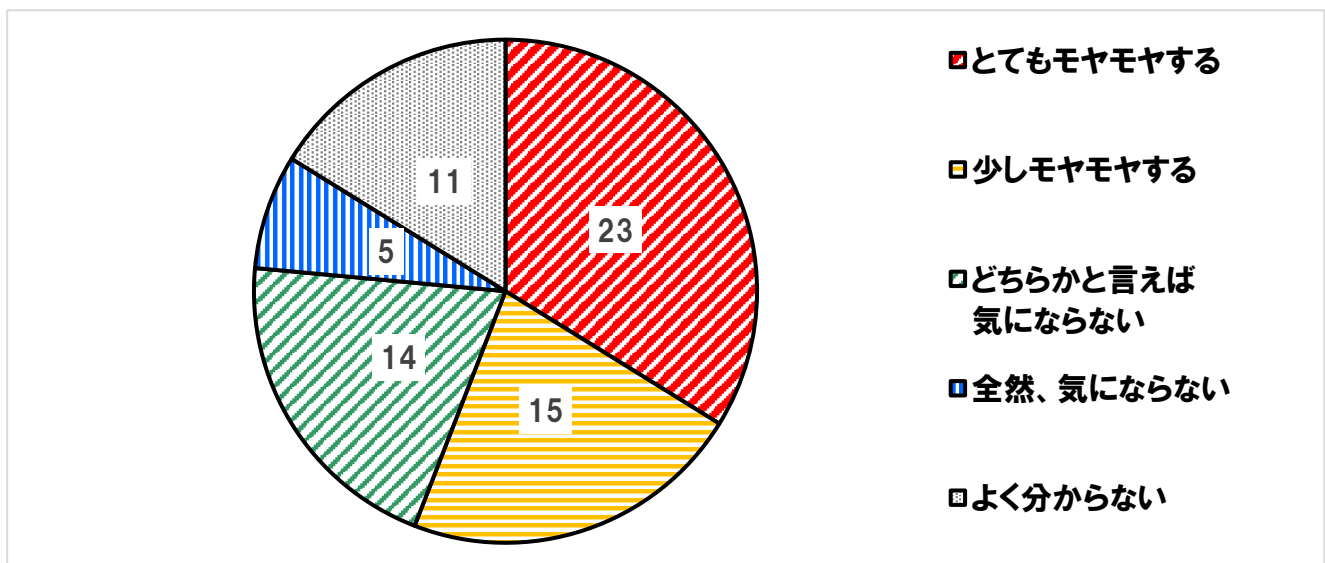
＜とてもモヤモヤする＞	
1	「奉仕」の言葉の持つ意味から、奉り仕えるという「お上に対して捧げる」という印象がとても強い。教育現場で使われる場面が多いが、その意味合いを本当に理解して使用している教員が果たしてどの程度いるのか、はなはだ疑問である。
2	ボランティアは誰かのために仕え奉る活動ではないから。ただ、様々な教団が行っている奉仕活動とボランティア活動の内容そのものがどう違うのだろうか？ と問われると、説明が難しい。実際は同じことをしているように思うので。
3	奉仕ではなく、協力・協働と考えたいですね。当事者意識を持つまでの関わりは難しくとも、関わっている間は問題を乗り越えるために困難をともにし、創意工夫したいと思うからです。
4	これもちょっと時代遅れすぎ。たてまつり、つかえる、の漢字がもう時代的にだめ。かわることばがみつからないだけだと思うので、つくってしまえばいいとおもう。
5	自分を安全な場所に置き困難な人を助けるというイメージが見える。 「ともにある活動ではなく」高みから眺めて「助ける。自己犠牲的」な印象がうかがえる
6	自分自身の中では、この言葉は死語、時代錯誤と思っています。 これも上から目線の大嫌いな言葉です。
7	ライオンズクラブなどが使用している言葉で認識されているため、奉仕＝ボランティアとの認識が広がっているのかな？
8	奉り仕えるという上下関係を表現する言葉として大阪ボラ協などの研修で教わったから。
9	崇め奉る方への行動で、相手と自分の間に上下の階層を作る気持ちになるから
10	仕えるという意味合いが、強い上下関係を連想させるから。
11	ボランティアとの混同はさせたい。しっかり伝えたい部分。
12	ボランティア活動の本旨からズレている。望ましくない。
13	ボランティアの想いと合致していないような気がする
14	ボランティアは自主性の高いものであるため
15	ボランティアを奉仕と表現することにはもやもやする
16	誰に対しての「奉仕」なのか？わからないと感じます。
17	宗教色や国家権力を強く感じる。
18	自己犠牲のイメージがあります。

19	自分を犠牲にしている感じ。
20	奉仕は強制性が強いから
<すこしモヤモヤする>	
1	私は奉仕という言葉ボランティア(完全な自発的な活動)とは区別して使用しています。経験上、奉仕という言葉を使用される方は高い年齢層に多いと感じています。奉仕には、自治会(町内会)や会社組織などの連帯の中で、活動する者が自ら活動するしないを決定することができない半強制的な環境下にある活動だと考えています。
2	自治会活動、学校や環境良くする等は奉仕ではないでしょうか。 宗教なども、ご奉仕を使われていますね。 「防災訓練があるからボランティア何名出してください」や催しのお手伝いも奉仕かも。 義務的にされることは、私は奉仕と言いたいです。
3	する人が自分のすることをそうだと思ってそう言うなら、ありだと思います。誰がどういう行動を(内面も含め)指してそういうのかによって違うかと思います。「奉仕」は「奉仕」、「ボランティア」は「ボランティア」。「奉仕≠ボランティア」。言葉はその内容に適切に合わせて使いたいですね。
4	ボランティアとイコールだと捉えている人が多いから。違うものとして使い分けている場合は良いと思う。自分の場合は、イコール前提で話している人との会話では、しっかり使い分けて相手に違和感や気づきを持ってもらえるようにしている。
5	自身が信じる宗教や信念において「奉仕」を使いたい人を否定するものではないが、ボランティアと「奉仕」は、そぐわないように思う。何に対して仕え、奉るのか？意識せずに安易にボランティア＝奉仕とごっちゃにする表現は避けたい。
6	宗教的な考え方から奉仕と言う言葉を使う考え方はあると思う。 一般の方がそれを使うのは主体的なイメージを持ってやっているということとイメージが違うように感じる。
7	奉仕するほうが、何やら、上位の人・階層に、行動を捧げるような感じを受けるから。する側とされる側の対等感が損なわれるのが、私は嫌なのだと思う。
8	奉仕をボランティアの意味で使うのはモヤモヤしますが、仕事があって、それを無償で行うという使い方はあるかもしれないと考えます。
9	学校教育上で定義づけられてしまっているものには、やむを得ないとは思いますが、訴えかけていく必要はあると思います。
10	慰問と同じく、時代に合わない。してあげるではなく、一緒に、という意味が感じられない。
11	外来語を日本語訳する際に使われた言葉として認識しているため理解はできます。
12	自分がボランティア活動をするときに、奉仕しているというつもりがないから。
13	本来の奉仕にそういう意味は無いのかもしれないが強制される感じがある
14	奉り 仕える が 上下関係を思いおこさせる。気持ちとしてはわかる。
15	クリスチャン系の学校が使用する場合もあり、使い方によるため
16	上下関係を前提にした言葉に思えるので。
17	うーん、対等性が感じられない。
18	1-4 と近い理由です。
<どちらかという気にならない>	
1	宗教的な意味もありますし、「自分は奉仕で活動している」という考えの方もいるので、違和感はありません。

2	ボランティアを奉仕とイコールにするのは違和感を感じるが、奉仕自体はあってもいいのかなと思う。
3	奉仕という言葉自体はありだと思う(ボランティアを指す言葉としては不可)
4	広く捉えたら まだ 許せる か ルー 出来る
5	前後の文章による
<全く気にならない>	
1	ボランティア=奉仕であれば、ずれていると思いますが、この言葉自体に問題があると思いません。奉仕という気持ちで活動している人がいるのであれば、それでいいのだと思っています。
2	「奉仕」と「ボランティア」の関係性が理解されていれば
3	奉仕したい人はすればいいと思うから。
4	特に気にならない
<よくわからない>	
1	これを大事なものだと言ってくる人には気をつけたほうがいい…という偏見が少しあります(すみません)。強制性を感じるので、ボランティア活動と並べて使われていたら、違和感があります。
2	組織・団体からの指示で活動する事で無償・有償に限らず、ボランティア活動とは言えない。

(2)「慰問」について

「慰問」は漢字のとおり慰めるために訪問するもので、上から目線で訪問先を下に見る意識が感じられる。訪問先の人々を哀れみ可哀そうな人と定義づけている、一方向性のイメージがある、などの自由記述があった。



【回答ごとのコメント】

<とてもモヤモヤする>	
1	歴史的な過程を顧みると、とても多くの場面で、特に戦時中や大きな災害があった時に使用されていた。その時世や政策の一環で、ゆがんだ目的に使われてきた印象が多々あり、言葉の持つ意味が現代には合わないのではないかと感じる。特に昨今、地域共生社会が声高に主張されている現状では。
2	年代的にどうしても戦時中の慰問のイメージがあるから。言葉の意味を調べると「不幸な人や不遇な境遇の人」を見舞うと書いてあるが、この表現自体がすでに病気の人を不幸と決めつけるという古い時代の固定観念を表しているの、さらに違和感を感じます。

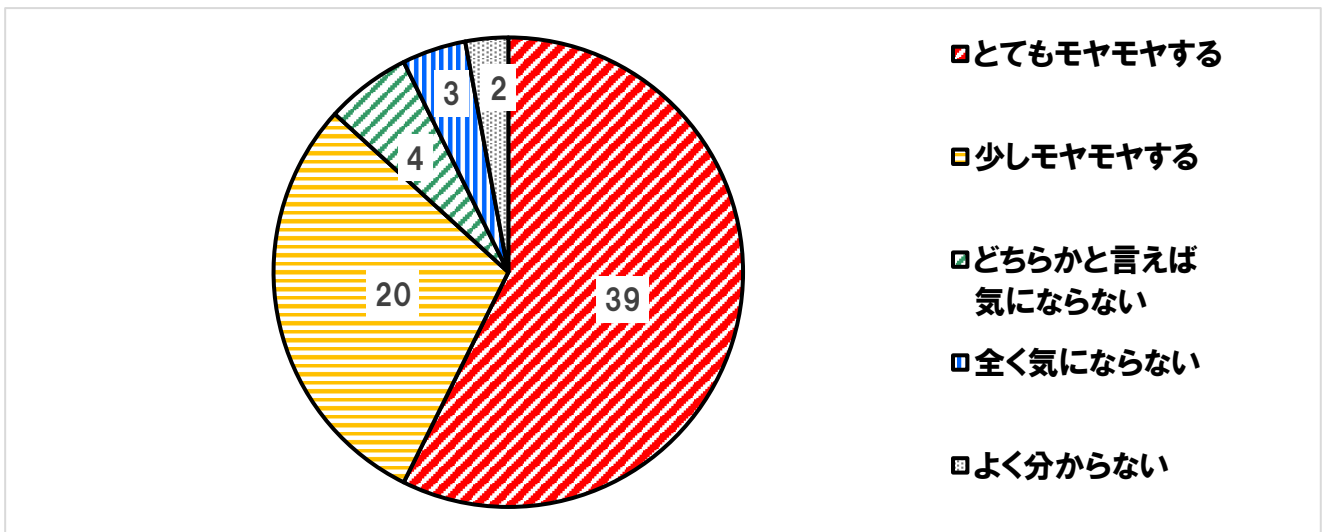
3	「受益者が下」という関係性を明確に表した言葉で、ボランティアとして活動する場合は使うべきではないと思うから。一方でボランティアではない場合(例えば仕事、商売、趣味)は、その人の意識次第で慰問という言葉を使う人もいるかもしれない。
4	慰問とは、慰める事として、40年ほど前から使っていません。 皆さんの住んでいらっしゃる生活の場へ伺うのですから、訪問とさせていただきます。 企業や古い方達は、慰問の方が達成感や優越感があるのかもしれない。
5	未だに使われていることが不愉快。 昭和40年代ボランティアが推奨され、高齢者施設に演芸等で出向く活動をイメージさせられる。ボランティアが定着していな時代のイメージが広がる。
6	慰問という言葉が、もしやまだ日常の中で使われているのだろうか？と設問に驚きました。ボランティアは誰かの上位に立って慰めるために行う活動ではないから。
7	施設訪問で昭和の時代によく使われていたが、施設入所者は慰める対象かという誤解につながりかねないので、私用は差し控えるのが適切だと思う。
8	理由を的確に言うことができませんが、私個人は使わない言葉であることは確かです。おそらく「上から目線」に感じてしまうのだと思います。
9	時代に合わない言葉のように思う。 ボランティアが、一方的に施しや癒やしや慰めを上から押し付けているイメージがある。
10	対等であることが重要。施してではなく、現地に寄り添い、現地が望んでいることをすべき。「慰問」はなじまない。
11	訪問先の人は、慰められる存在でもなければ、慰められないといけない場にいるわけでもないため。
12	「訪問先の相手がかわいそうな人、気の毒な人、不幸な人前提」の上から目線の表現ですから。
13	時代遅れすぎ。されるほうもいやそう。っていうか慰問されるのは自分だったらいやだなあ。
14	「慰」めるために「訪」問するという視線が受け入れられないため。
15	言葉として、若い人がわからない。今の時代にふさわしくない。
16	慰問の言葉を調べると、適切な使い方ではない気がします。
17	此の言葉は使うべきで無いと思うし 聞きたくない
18	ボランティアと同義で使うとすれば、違うと感じる。
19	慰問をされる方を下に見ている意識を感じるから
20	戦争時代。活動先の人を哀れんでいるようだ。
21	これも上から目線の大嫌いな言葉です。
22	対等であることを感じないため
<すこしモヤモヤする>	
1	「慰問」が必要な状況や場面、立場によって全否定するものではないが、ボランティアと「慰問」という言葉を結びつけることは避けたい。ボランティアは、あくまでも対等な関係性を大切にしたいので、相手がかわいそうな人、不幸な人と決めつけてしまうような関係にならないよう気をつけたい(意識したい)ので、ボランティアと「慰問」は無関係であってほしい。
2	活動するボランティア、ボランティアを受け入れる側の動機や目的によって、言葉の受け止めは異なると考えます。双方が慰問(見舞ってなぐさめること)を目的として期待しているのであれば必ずしも不適切とは言えません。しかしながら、双方並びにいずれか一方が慰問を目的、期待していないのであれば、適切ではないと思います。

3	戦前戦中でも言葉の裏側にある市民の悲しみや葛藤を思うと、言葉通りの意味に使われているとは思えない。慰め的な上から目線だけでは説明がつかない。
4	最近、慰問という言葉自体をあまり聞きませんが、使っている場合も、字義通りの意味で使っているケースは少なく、そのことの方が気になります。
5	慰める意味で訪問することもあるのでは、ないかと思います。決して弱者というイメージではないと思います。
6	慰問とボランティアは全く違うものと認識しているが、ボランティアの意味で使われるのはモヤモヤします。
7	戦争を思い浮かべてしまう。慰めるという言葉がこの場合、上下関係を想起させるから。
8	上から下へ、というイメージがある。みんな同じという時代なので、古臭く感じる。
9	慰めるという表現が一方性のイメージを抱かせるため。
10	慰問する側がされる側より上位に位置するように私は感じるから。
11	戦争中と関係する表現のように思う。
<どちらかという気にならない>	
1	受け入れる場合が嫌ならやめればいい。ただ「慰めたい」という気持ちがボランティアする側にあることも否定できないからです。
2	この言葉を使用する方々の世代や背景を考えると理解ができるためです。(若者はあまり使わないと思います)
3	個人的には使いませんが、行く側と受ける側の双方が良ければ、あまり気になりません。
4	戦争を想起してしまうが、励ましたいというイメージの方が強いので。
5	そもそも最近慰問という言葉自体を使う機会が少ないため
6	ボランティアがその言葉を使いたくて使うのであれば
7	どのような文脈で使われるかによります
8	そういう活動もあると思う
<全く気にならない>	
1	昔から使われている言葉で、それなりに確立した意味付けがなされていると考えます。
2	昔からある行為だから。
3	特に気にならない
<よくわからない>	
1	「プロスポーツ選手が施設を慰問」みたいな形で見かけますが、ほぼ死語と化しているような…。持てる者が持たざる者に感があります。ボランティア活動の文脈で使われていたら、違和感があります。
2	慰問という言葉自体は昔からあるものだから、気にならないが、芸能人が●●を慰問とかは、なんかえらそうだなと思う
3	誰が、誰を慰問するの、慰問が出来る人がやればと思います。
4	どういう場面で使われているのか、よくわからない。
5	そんな言葉今時使っているひとがいるんですか？

(3)「ボランティアの活用」について

ボランティアは主体的に活躍するもの。「活用」は安価な、あるいはタダで人を使う時に使われてい

る。「ボランティアの活用を」と発言している人が、この表現が自分に向けられた場合、受け入れられるのだろうか、などの自由記述があった。



【回答ごとのコメント】

＜とてもモヤモヤする＞	
1	「活用する」というのは、それを「(生かしてうまく)使う」人がいるということかなと思います。ボランティアを「主体的に行動するもの」ととらえていると、誰かに指示される印象が伴ってしまい違和感につながるのかなと思います。 また、人に対して「活用する」という言葉をあまり使わないからかもしれません。「ボランティアの力を活用する」であれば、違和感は残りますが多少受け止めやすい気がします。
2	今回の災害でも、人手が必要になってくるでしょう。様々なニーズも出てくるでしょう。活用と言われれば、どうしたら良いかわからない方達の力を集めて、出来ることで活動できて良いでしょう。 ただ、普段の施設等で、人手が足りないから、ボランティア活用と言う場も多いです。
3	Q1-1と同じ(「派遣する」は目的語があるのが一般的な動詞で、この場合は「ボランティア」が目的語となり主語が別にあることが前提となる。「別の主体が、ボランティアを派遣する」という文脈になり、ボランティアの行動を別の主体が決めることになるため、ボランティアの定義に矛盾すると思います)。ボランティア自身の行動に関わる動詞の目的語に「ボランティア」が位置づく文章は、全般に矛盾をはらむと思います。
4	問1-1の回答と同じ(ボランティアは、本人がやりたいことを本人の意思によって行うことであり、どこかの組織や団体の意思でどこかへ送られる駒ではないと考えるから。ボランティアが行きたいと思、その思いに沿った活動を提供する団体の取り組みに自らの意思で参加する、何かをやりたい個人が、団体の取り組みを利用する、というのはあります)。団体や組織に活用される駒ではないから。
5	「活用」という言葉に、対等な関係をイメージできないから。 活かす人と活かされる人の一方通行な関係をイメージしてしまうため、本来の双方向の対等な関係性を最終目標とする姿から、かけ離れる気がします。
6	頭の片隅にもない方からは社会資源として活用しましょ！とボランティアの存在を知ってもらうことは大事と思いますが、活用といってる時点で一つのサービスや事業と混同して考えられてしまうのはモヤモヤします。

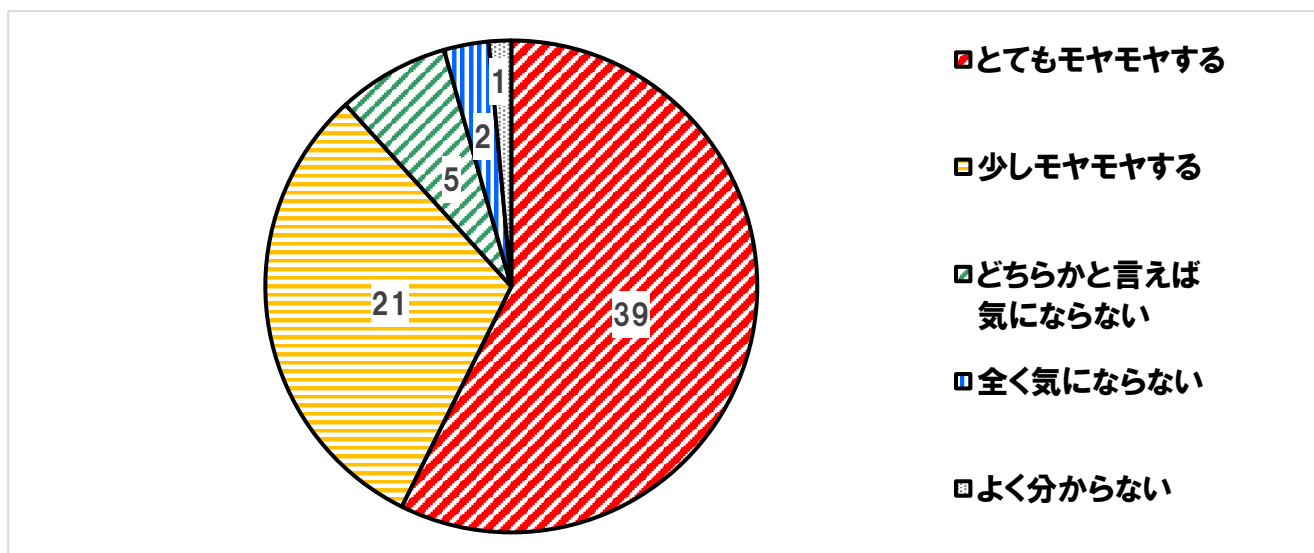
7	シチュエーションや主催側の企画意図が明確でない時に、「活用」の意味あい「うまく使うこと」という意味が含まれており、やはり自身の意志で判断して行動するボランティア活動には相反すると感じるから。
8	他人の時間や労力をいただくのに「活用」というのはかなり上から目線な言い方で、している人への配慮や敬意が足りない表現だと思います。そう言うところは気分が悪いので極力関わりたくないですね。
9	「ボランティアが放つ力を社会のために活用する」のであれば、まだわかる気がするが、ボランティア活動をする人そのものを活用するのは、単なるマンパワー扱いのようでモヤモヤする。
10	社会資源として捉えている方は、「活用」という言葉を使うかもしれないが、ボランティアを受け入れる側も、行う側も WIN-WIN になるのが理想で、対等な立場なんだと思います。
11	Q1-1 と同じ(指示命令のニュアンスを感じ、自発性を損なう表現であるため)。「上から目線」と、ボランティアを「人」でなく「機能」「道具」とみなしている感じを受けるため。
12	上記と同様、自主的な思いをもって参加している人を、誰か(何かの組織)が「活用」という言葉は誤り。上下関係をつくるような言葉を使うべきではないと思います。
13	大学の中でも、ボランティア活動は就職に有利な条件となるものとして、また、広報のツールとして使われる場合が多いので、違和感を感じます。
14	上から目線のような気がして、使わないようにしている。「ボランティアとの協働」という言葉を使うようにしている。
15	この表現に出くわすと、「ボランティアはあなたの道具じゃねーから」といつも感じます。(口汚くすみません)
16	上から目線的であり、特に行政は活用という言葉が繁盛に使うが、ボランティア活動の本旨には馴染まない。
17	ボランティアは所有物ではないし、上から目線の物言いが大嫌いです。WIN-WIN の関係でないといけません。
18	自ら進んで参加するものであり、誰かが活用するものではないから。言い換え:ボランティアの活躍
19	「活用する業務」に携わる側の目線のみで、活動者へのリスペクトが無いから。
20	「物を扱う」「自分の支配下にボランティアおこうとする」用になります
21	うまく使おう(利用しよう)としている雰囲気を感じてしまうから。
22	行政が安く或いはただで人を使う時に使用される言葉
23	ボランティアとコーディネーターは上下関係ではない
24	行政が使いがち 安価な労働力とってそう
25	ボランティアは「活用」されるものではないので
26	"活用"の語は人に対して使う言葉だろうか?
27	ボランティアは活用されるものではないため
28	ボランティアそのものではなく、別
29	なんだか上から目線な印象
30	何様だ?と思う。
31	上から目線
32	活用
<すこしモヤモヤする>	

1	ボランティアを受け入れる側の考え方によって変わるように感じる。いわゆる無償の労働力として「活用」という場合はとてもモヤモヤだけれど、自らの意思で活動するボランティアを受け入れて、その団体、施設の中で上手に活かすという意味での「活用」であればありかもしれない。
2	活用という表現には「活かす」という意味があり、ボランティアの方々の能力等を活かすという意味ではあてはまると思うのですが、普段、他の場面で使用する「活用」という表現を考えると、物体のイメージを持ってしまうので、すこしモヤモヤが残ります。
3	私自身、使っていたことがあります。が、今は意識して使わないようにしています。それもボランティアと協働関係にあるとき、ふさわしくないと言葉と感じます。
4	利用したり、活用という言葉には違和感があるが一般的にわかりやすい言葉として使うんだろうなと認識しています。
5	活用となれば、誰か上位の者が指示を与えて動かすイメージが伴い、本来のボラの意味を損ねる。
6	誰が使うかで印象が違う。当事者ならばまあいいが、依頼する側や行政だと抵抗がある
7	だれかが活用する・される関係のコトではなく、ともに参加・活動するものと思うから
8	ボランティアの活用ではなく、ボランティアの持つ力の活用ならわかる気がします
9	活用という言葉には、それほどマイナスなイメージは持っていないから
10	ボランティアを「利用」するというニュアンスを感じるから。
11	双方向の表現ではないし、上下関係をイメージします。
12	活用 なんか 上下関係が在るみたいに感じる
13	活用される筋合いではないと思うからだと思う。
14	活用するのではなく一緒に活動していくもの
15	ボランティアは活用するものではないから
16	便利使用的なニュアンスを少し感じるので
17	活用よりも、活躍としてほしい
<どちらかという気にならない>	
1	ボランティアが何かを支える存在として「活用」という形であっても存在感を持つようになっただけでも時代が進んでいると、むしろ、肯定的に受け止めています。
2	ボランティア側からすると利用されてる感を感じるかも
<全く気にならない>	
1	社会課題を解決するためには、あらゆる社会資源の活用が不可欠だと考えています。ボランティアもその資源の一つです。都合の良いように上手く利用するという悪意のある捉え方は不適切ですが、社会資源やボランティアが持つ強みを上手に活かすという意味での活用の捉え方はむしろ適切であると思います。
2	ボランティアや寄付を必要としている現場は、そのリソースだけでは回せていないから外部リソース(無償の支援)を頼っていると言えるからです。できるときに、できることを、できる範囲でという考え方は、やる側が「したいことを、したいときに、したい分だけやるもの」とは、少し違う気がするからです。
<よくわからない>	
1	ボラセンの対応の事を言っているのでしょうか

(4)「ボランティア派遣」について

ボランティアの自発性・主体性・自由意志等を妨げる、頭数として計算され駒として扱われる、会社

等での労働と同じ性質を感じる、などの自由記述があった。



【回答ごとのコメント】

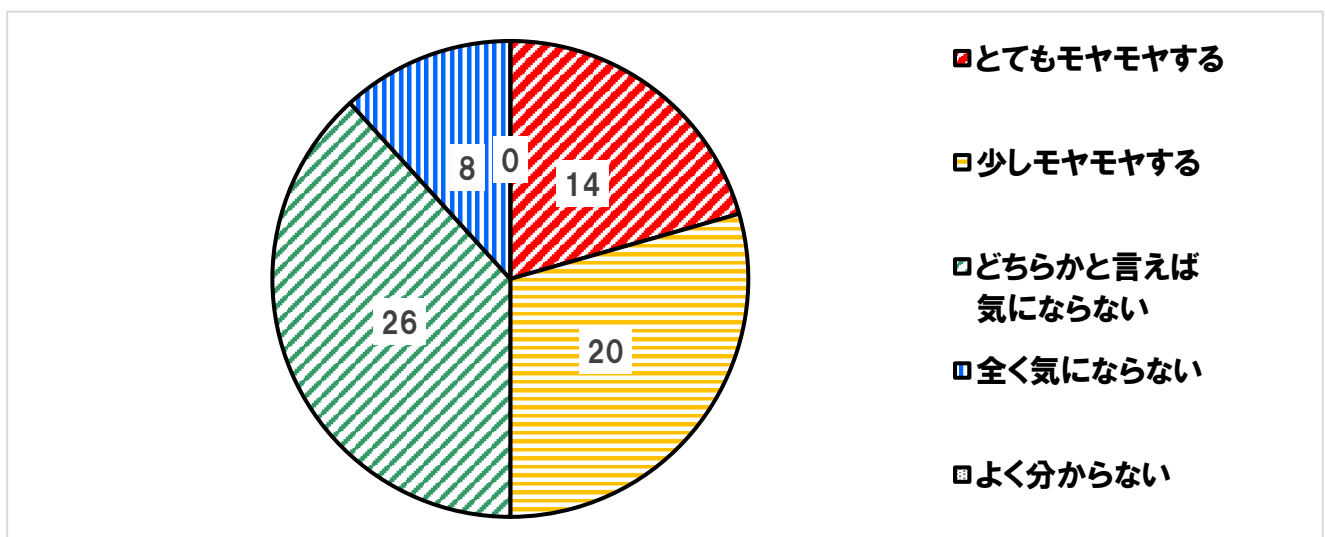
＜とてもモヤモヤする＞	
1	語義矛盾に感じます。「派遣」は命令されて差し向けられる意味なので…。この表現は災害ボランティア関連で多く見かけますが、普及には極度にしくみ化された災害ボラセンが貢献してしまっているように感じます。ボラセンスタッフやコーディネーターが違和感なく「ボランティア派遣」を使用しているケースも見受けられるので、いつもギョッとします。
2	ボランティアは、本人がやりたいことを本人の意思によって行うことであり、どこかの組織や団体の意思でどこかへ送られる駒ではないと考えるから。ボランティアが行きたいと思い、その思いに沿った活動を提供する団体の取り組みに自らの意思で参加する、何かをやりたい個人が、団体の取り組みを利用する、というのがあります。
3	「派遣する」は目的語があるのが一般的な動詞で、この場合は「ボランティア」が目的語となり主語が別にあることが前提となる。「別の主体が、ボランティアを派遣する」という文脈になり、ボランティアの行動を別の主体が決めることになるため、ボランティアの定義に矛盾すると思います。
4	ボランティア自体が個人、そして本来の意味が自発的なもので、誰かに指示されるものでもない(上手く言えませんが、派遣会社のようなものではなく、団体・組織は、なかなか個人では入りにくいボランティアしたい人の希望を叶えるハブの役割)ので。
5	ボランティアはそもそも自由意志に基づく行為であって、「はけん【派遣】《名・ス他》(ある任務を負わせ)命令して(一時的に)差し向けること。「一軍」されて活動するという表現に合わないと感じるため。
6	「派遣」という言葉に、自由意志や自発性を感じられないから。辞書に「(ある任務を負わせ)命令して(一時的に)差し向けること」とあるように、ボランティアは誰かから指示されるものではないと考えるから。
7	ボランティアは「業務」ではなく、自主的に参加するものなので、自衛隊や職員の出張等のように「派遣」(命令権者である上司がいて、その命令で赴く)ということばを使うのは、まず、日本語の使用法として誤りです。
8	「派遣」とは命令して差し向わせる意味が内包しているので、自身の意志により行動するボランティア活動等は相反するから。

9	「派遣」には、必ず送る意味があると感じています。ボランティアの主体性が大切にされていないと感じます。
10	派遣ではないよねとよく感じるから。 そして、それをボランティア関係者の方でも、普通に使う場面も多いので。
11	派遣という言葉に「誰かに命令される」というニュアンスが含まれているため
12	自主的に動くのがボランティアであるので、派遣されるものではない
13	コーディネートや、マッチングという言葉が適切なような気がします。
14	指示命令のニュアンスを感じ、自発性を損なう表現であるため。
15	ボランティアは自らの意思によっていくものであるから
16	ボランティア活動は自発的に行われるものであるから
17	ボランティアの自発性に派遣の言葉は馴染まないため
18	派遣されるんだなあ。と職場みたいだと思う。
19	ボランティアは派遣されるものではないため
20	派遣の語意がボランティアにはそぐわない。
21	人材派遣みたいな印象があります
22	自分の意志で行くものだから
23	！ - ！
<すこしモヤモヤする>	
1	字義的な意味を純粹に読み解けば、モヤモヤとするのですが、字義どおりに発言している人ばかりではなく、どう表現してよいかわからず使っている人もいると思っています。その方の発言・発信意図によると思っています。前後の文脈で、字義的に使っているのであればとてもモヤモヤしますが、そうでない場合も多く、そういう場合はそんなに気になりません。この言葉の前後からその人がどのように思っているかを感じたときにモヤモヤ感を感じます。
2	派遣という言葉の意味は、辞書によって多少の違いはあるものの、概ね「ある使命をもっておもむかせること」とされています。その捉え方として、指示をする者(派遣する立場)と指示を受ける者(派遣される立場=ボランティア)という理解が一般的であると思います。その代表例が 労働者派遣事業です。そのため、派遣という表現を使用する、されることについては、違和感と嫌悪感を感じます。
3	「派遣」という言葉がモヤモヤする。派遣は、計画的に予定されたものを実行するという意味合いが強いので、自由な市民活動とは肌が合わない表現だと感じる。一方で、ボランティアをする人も、厳密にボランティアの意味を理解しているわけではないので、言葉自体の成り立たなさも感じるところで、「すこし」とした。疑問を持たずに派遣される人も多いでしょうから。
4	自らが参加を希望する活動としてのボランティアであれば、派遣されるという言葉の使い方は厳密には違うのかもしれないと感じますが、災害時等は個人がばらばらと行くよりも行政や団体が希望する個人をまとめて派遣するという考え方もありだと思えます。
5	「派遣」されることが前提で、そのボランティアが「派遣」されることに同意しているのであればそのような表現はあり得ると思うが、そうした状況がない状態で話されることがあるので、モヤモヤしている部分があります。
6	ボランティアは主体性があるから活動になっていると考え、派遣するものではないと思うが便宜上一般的に使われている単語で表現しているものだと理解するように努めている。
7	ボランティアマネジメント側にいると、「派遣」という言葉をつかってしまうが、ボランティア側に立つと、若干違和感がある。ただ、適切なことばが思いつかない。

8	人材派遣会社ですか？なんて思うことがあります。いい人よこしてくださいとか。最近はあまり聞かなくなりましたが、まだくすぶっていると思います。
9	JVCA の研修会でボランティアは自発的なものであり「派遣」より「調整」がふさわしいだと聞いた覚えがあります。
10	自由な意思に基づいて行われるはずの活動なのに、仕事や義務によって行われるような印象を受けます。
11	遣わされるという感じがしっくりこない 自発性を否定する感じがする
12	ボランティアはあくまで自由意志なので、命令されていくものではないため
13	派遣されるというのではなく、自発的意思に基づく行動だから
14	きっと派遣ということばに上下関係を感じるからだと思います
15	派遣社員のように派遣されるものなのかモヤモヤ
16	主語が政府・自治体ならば気にならないです。
17	ボランティアは派遣されるものではないから。
18	ボランティアは自主的・主体的なものだから。
19	有償ボランティアと同じような表現の問題
<どちらかという気にならない>	
1	ボランティアは、派遣であろうがなかろうか自分の意志で行うものだから
<全く気にならない>	
1	誰かがボランティアを取りまとめている、その誰かがボランティアを「派遣」するのは不自然ではないから。
<よくわからない>	
1	行政が使うとひっかかるが、民間団体が使う状況もありそうな言葉だと思うので。斡旋や紹介では少し頼りない感じがするし、派遣だと期待できる印象があり、被災者には支えになる。

(5) 「ボランティアさん」について

唯一、「モヤモヤする」「気にならない」が同数になった表現。アンケートでの設問の際にどのような状況で使われた時にモヤモヤするのか、という「場面設定」がなかったため、モヤモヤ度が分散された。



【回答ごとのコメント】

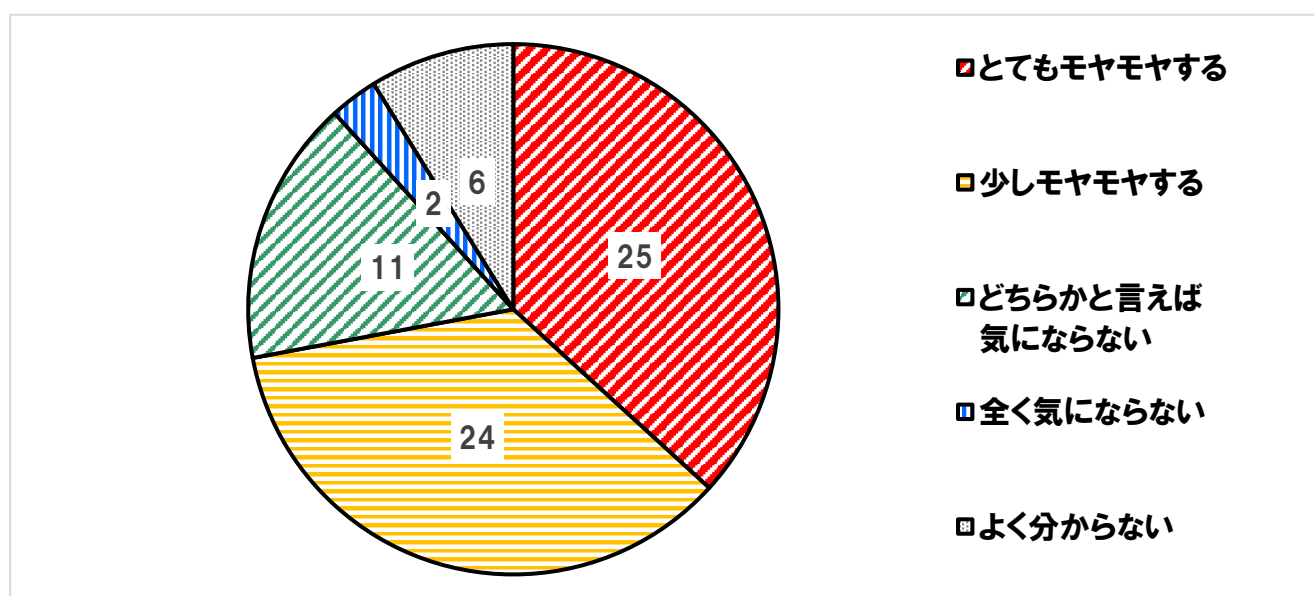
＜とてもモヤモヤする＞	
1	ボランティア”さん”だけではなく、利用者”さん”のように、福祉現場でクライアントを支援対象としてとらえて呼称として使用しているのだろうが、個々人に氏名があるので、氏名で呼ぶべき。福祉専門職を中心とした悪しき伝統が何も考えられずに継承されていると思う。やはり地域共生社会の実現のため「支援する側も支援される側も超えて～」と提唱しているのであるならば、やめた方がよい。
2	ボランティア「さん」には、ありがたいの感謝の気持ちや敬意を表現しているように思うが、その関係には対等性が意識されていなかったり、内と外とに隔てられているように感じる。いわゆるお客さま扱いされている、していることに対してお互いに無意識のうちに使われてることがあるけれど、課題に題して「仲間」であり、対等に関わっていく姿勢を共有するときに「さん」は不要だと感じます
3	特定の個人を指すなら名前と呼ぶべきだし、普通名詞としてなら「さん」は不要と考えます。どちらにしろ雑に扱ってる感があるのでモヤモヤします。ボランティアとの関係は対等だと思うので。婉曲表現なんだろうが、なんでも「さん」つけすぎです。社協さん、担当者さん、コーディネーターさん、...
4	ボランティアにも一人ひとり人格があり、ボランティアの〇〇さんというのは良いのだが、「ボランティアさんに任せて」のようにその他大勢の人格がなくなってしまうような感じに思われているとしたら残念に思う。
5	”総称”にさん付けはおかしい。ボランティアを尊重する意味を持っての言葉使いと思うが、ボランティア一人一人を見ているのではなく、一絡げで呼ばれ個人として尊重されていない印象がある。
6	総称して敬称的な使い方等で丁寧な言い方をしているのを聞くことが多々ありますが、ボランティアは個人個人名前があるので、きちんと”ボランティアの〇〇さん”と言うべきだと思います。
7	リスペクトの意味に捉えているのかもしれないが、「さん」付けは <u>入らない</u> 。(要らない、か?)
8	何にでも「さん」つけるのはおかしい。「住民さん」「企業さん」も同じく
9	ボランティアは総称だから。個人を呼ぶときに失礼ではないかと思います。
10	ボランティアとの協働関係に反すると感じています。私は使いません。
11	ボランティアは人ではないので、さんは必要ないかと思います。
12	ボランティアさんと呼ぶのではなく、個人名で呼ぶべき
13	きもちわるい
＜すこしモヤモヤする＞	
1	さん付けをしたいという職員の気持ちはある。が、その言葉が使い勝手がよすぎるので、ボランティアさんと使い始めてしまうと、相手の名前をいわないで、まるっとそれだけで、ひとりひとりをよばずに、代理的にそれで呼称してしまうことがよくないと思う。それが後輩とか、若い職員がみて、ボランティアさんを、そう呼ぶもんだと、そんなものだと、刷り込まれるようなことがもっとよくない。
2	本人に対しては絶対使わない。ボランティアの〇〇さん、ボランティアの皆さん、と呼ぶようにしているが、第三者と話をしているときにボランティアさんという言い方をしてしまうときがある。
3	「ボランティアの〇〇さん」や「ボランティアの皆さん」を省略し、丁寧にした言い方で使うことが多いが、少し気になる。(職員さんといわれてもあまり気にならないが)

4	気になるが、もともと外国語であるボランティアに敬称をつけるしか、敬意を表すいい(というか簡単な)方法がないように思い、しかたない気もします。
5	施設や組織から、ボランティアさんと、敬語の様に言われることもあります。私は、苗字か名前ですとお願いしています。
6	「・・・さん」は自分より下と思っている立場の人につかうことが多い。
7	「さん」っている?と思うが、丁寧に言いたいんだろなあと複雑。
8	自分は使わないが、使う人に「おかしい」とまでは言えないため。
9	対等間(感?)が少なくなる気持ちになるから。
10	個人を蔑ろにしているように感じるから。
<どちらかという気にならない>	
1	使用するシーンによって異なると思います。活動する場において、一個人を「ボランティアさん」と呼称することは極めて失礼であり、個人を尊重していないと感じます。一方で、ボランティア全体を総じて表現する場合に、ボランティアの皆様(皆さん)というのは不適切だとは 考えていません。
2	言い方や場面や状況によるかと思えます。仮に「ボランティアさん」でなく例えばきちんと名前と呼ばれても敬意や配慮に欠ける対応をされたら不愉快。「ボランティアさん」は言い方だけを取り上げて良い悪いという言葉ではないと認識します。
3	福祉施設でよく聞く言葉ですが、専門職として支援に携わる職員さんが、そうではないボランティアに感謝の意を込めて丁寧に呼ばれている表現だと思っています。
4	これも誰が誰に対してどの場面で使うかで違う。むしろ尊敬や感謝を込めている使い方もあるのではないかと。一概に言えなすぎて、場面設定必須だと思う。
5	自分自身は「さん」をつけず、「ボランティアの方」という言い方をしているような気がする。他の方が「さん」をつけていても、それほど気にしていない。
6	どのように呼んでいいのか、受け入れに慣れていない現場の戸惑いのようなものを感じますが、敬称がつくのでむしろいいことなのでは。
7	〇〇達のような、複数の断定しない方達としての〇〇グループのボランティアさんといった表現で使っている時に気になりません。
8	特定の個人に対してではなく、総称として使われる場合には、「さん」がついても違和感はないから。
9	私はボランティアという名前ではない!とは思うものの、愛着を込めて呼んでくれるんだろうなと思う
10	ボランティアの〇〇さん という表現が ボランティアさんになっていると思うからです
11	個人(属人)に対してでなくボランティア活動者という視点からの呼称と思う。
12	さん、は、私には、丁寧な表現、または、親しみを込めた表現と思えるから。
13	気にはなるけどふとしたときに使ってしまう事があるので複雑です。
14	気になるかならないか、使い方や場面にもよりそうです。
15	その時々で、呼び捨てより、いいかもしれない。
16	使い方に気を使っていれば
17	微妙
<全く気にならない>	

1	「様」であれば、気になります、さんであれば気になりません。もちろん個人の名前を呼んでもらうのがいいですが、ボランティア全体を呼ぶ際など、「さん」をつけることで大切にしていることを表すことができると思っています。
2	呼び方は何でもいいです。立場がちがうことは明らかですし、呼び方よりも立場を超えて、創意工夫することが大切だと考えるからです。
3	とりあえず名前がわからない人を呼ぶときに、役職+さんとなるのは自然だから。
4	何でも「～さん」を付ける関西弁のノリだと思っているから。
5	単なる丁寧語。こだわる必要はない。

(6) 「ボランティアポイント制度」について

ボランティアの目的が歪められる、財源論を基に設計された制度の土俵に乗せられている などのコメントの一方で、受益者負担の観点から、致し方ないと感じている、などの自由記述があった。



【回答ごとのコメント】

<とてもモヤモヤする>

- 実際に運用すると、活動をきちんとやっても、適当にやっても同じポイント数という話になり、質や公平性をどう担保するのか、という話になるのが目に見えています。

また、制度を作っても維持していく力を維持していくことができるかどうか。維持できなければ「やり損」という人たちが現れ、そうならないためにどうしたらよいか、という話になり、どんどんボランティアの本筋からずれた話になっていきかねないのですが、やっているところはそうしたところまで見通してはいないように思います。

やる人、そして影響を受ける人は市民のみなさん(出生・転入で新しく市民になる人も含めて)ですから、一部の人だけでなくなるべく多くの市民と、将来的なリスクや課題もきちんと説明して市民の皆さんが十分理解・納得したうえでやるなら別ですが、「工夫」でなんとかしたいと思っているところにそんな労力をかけるアタマはないでしょうし、労力をかけるほどのものなのかというシロモノでもあるので、導入された自治体の住民の方々には全く残念、としか言いようがありません。

2	<p>ポイント制度については、経費持ち出し時代もあり、ポイントでお金で認められる事を希望してきた時もありました。</p> <p>ボランティアとして、それが目的で活動する事や、基準の難しさもあり出来ませんでした。</p> <p>亀山では、昭和61年から積み立て始めたボランティア基金での助成も可能になっています。</p> <p>金利益での運用目的でしたが、金利が下がり凍結。1億4000万円程でしたが、市町合併で、1億7000万円になり、社協財産になってしまいました。現在1億5000万円余。</p> <p>市民活動の方は、応援制度として、応援券で1団体上限30万円まで市から出ています。</p>
3	<p>今までコーディネーションした中で、ポイントが欲しくてその時だけボランティアをしていると感じた学生がいたが、そこは受け入れ側がきちんとボランティアについて伝えていかなければならないと感じました。</p> <p>ポイント制度がけして悪いということではないが、受け入れる側がきちんと対応することが重要だと思います。</p>
4	<p>「ポイント」には、何かご褒美的な意味合いを感じる。また、「ポイント」は貯めて、何か他のもの(こと)と交換できるサービスとイメージが強く結びつくので、結果として「自分のためにもなっていた」という気づきというより、あらかじめ「何か良いことがある」ということを決めつけているように思うからです。</p>
5	<p>印象として、介護保険を利用する前に、少しでもボランティア・地域活動を行い、その活動の対価として自身がお世話になるための「貯金」しておくという意味合いに使用されていることが多い。自身が行った行為を「感謝」の貯金としてシステムの使おうとしていることにとても違和感を感じる。</p>
6	<p>つまり対価性が生じるということですね？地域に出ていると思いますが、「無料ではもうしわけない」「少しだけでもお金があったほうが参加しやすい」みたいな言葉がよく聞かれますが、うーん、それが動機だとしたら違うよなと思うのです。</p>
7	<p>行政さんがやる場合に、ボランティア活動が活発になることを狙っていると思いますが、ポイントがつく活動とつかない活動が出てしまい、活動の幅を狭めてしまうため、モヤモヤします。</p>
8	<p>活動者はポイントを目的に始めてしまう可能性があるし、企画者はポイントをエサに人を集めようとしているように感じるから。</p>
9	<p>ポイントがお金と同じような効果があるのであれば、ボランティアではなく、お仕事の面が出てしまうと思う。</p>
10	<p>僕自身はボランティアをしているときに、ポイントをほしいと考えたことは一度たりともないからです。</p>
11	<p>「ポイントが無いと人は動かない」前提の制度で、ボランティアの可能性を信じていないから。</p>
12	<p>商品購入などによるものについてくる「ポイント」はボランティア活動にはそぐわない。</p>
13	<p>ボランティアへの報酬と同等と感じる。ボランティアの本質から逸する印象がある。</p>
14	<p>ボランティアの「目的」が歪められる可能性が大きいと感じるから</p>
15	<p>ポイントをもらえない活動を市民がしなくなるから。</p>
16	<p>ポイントの獲得？の為にやるものではないので。</p>
17	<p>代償を求めるものではないからおかしい</p>
18	<p>ポイントという制度はおかしい。</p>
19	<p>目的が理解しがたいです。</p>
20	<p>無償性に矛盾するから</p>
<p><すこしモヤモヤする></p>	

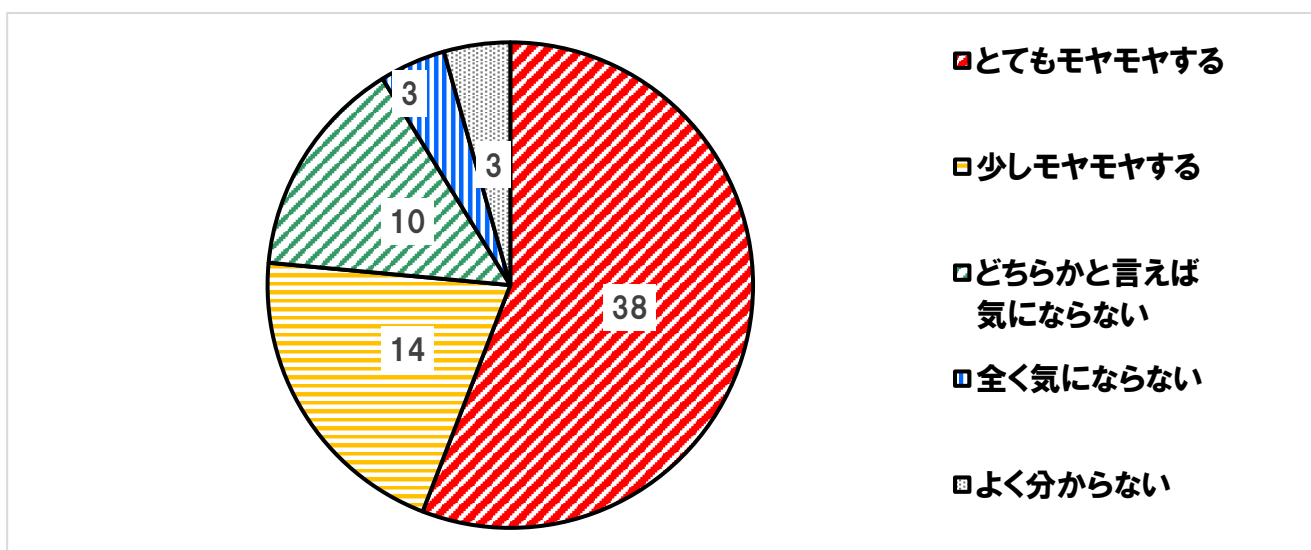
1	ボランティアとしてはそれを目的にするわけではないが、励みになる要素はある。不定期だが、施設の設立記念で「〇年ボランティアをやっていた方に感謝状」を差し上げると上から言われ、自分の本意ではないが発行したら、思いのほか「嬉しかった」という声をいただいた。始めからわかっていた「ポイント制」とは少し違うが、そういう意味もあるのかと感じた。
2	ポイントがなくても地道な活動をしている方はたくさんいるし、ポイントがなければいけないというのも残念に思う。しかし、世の中がポイント取得に助けられてその事の推進が進んでいくのであればそれを逆手に取って乗っかって行くのも有り時代の時代なのかもしれないと思う。
3	教育現場でボランティア活動が単位化されるようになったのが象徴的ですが、ボランティア活動という入口に立ってもらうきっかけとしていろいろなチャネルがあっという間だと思っており、それがポイントであろうと、単位であろうと、構わないと思っています。
4	この制度が出てきた時にはモヤモヤ度は高かったが、今では全国各地で1つの制度として馴染んでおり、全面的に否定はできない状態であるように思う。しかしながら、制度名としてもっと適切なものはないのだろうかとも思う。
5	ポイントの設定にもよりますが、報酬の形が金銭からポイントに変換された制度と受け止められます。しかしながら、ボランティアを始める動機付けとして、このような工夫も必要であることも理解しています。
6	ポイントをどう貯めるかというルールが定められるプロセスで、何回やったかが他と比べて評価されるような気がする。ボランティアは、他の誰かに評価されるものではない、と思う。
7	自ら進んで参加するものであり、ポイント積算をもって評価を下すものではないから。しかし、ボランティア参加者が活動の振り返りに活用するのは差し支えないと思う。
8	ラジオ体操のハンコのように励みにする程度のものなら気にならないが、換金性があるなどは違和感がある。言葉自体がどうとはあまり思いません。内容によります。
9	ポイントを貯めるためにボランティア活動をするようになってしまう可能性があるため。ただボランティアを増やすことができる可能性もあるため、少しモヤモヤします
10	ボランティア活動にどのような「見返り」を求めるかはその人の自由なのに、ポイントというある種の共通通貨が導入されることに抵抗感があるから。
11	ボランティアでポイント制度をつけることは、本来のボランティアの原則にそぐわないと思うためです。
12	市民が舐められているのか。ただ、世の中的には浸透しているシステムで楽しくできそう。
13	ボランティア活動すればポイントがたまることがボランティアの原則と馴染まないため
14	制度設計による。実質的な対価に当たるものであればボランティアではないと思う。
15	無償性・無給性がボランティアの原則のひとつであるため。
16	ポイントありきになるのは違うと思うので。
17	対価性を強く感じる
18	誰の為の ポイント？
<どちらかという気にならない>	
1	人にやさしくする行為や寄り添う行為など、何でもポイントでの損得で考える風潮を生みかねない点がきがり。しかし、参加のきっかけづくりやモチベーション、インセンティブなど見方によっては評価できる要素もあり、時代の流れとしてとらえるようにしている。
2	対価を求めて活動するのは違うように思いますが「お互いさま」と考えるとよいのかなと思います。
3	いろんなポイントがある時代なので、うまい仕組みを作って、活用してみるのもあり、かと

4	ポイントであっても報酬制があるのは悪くない。それもきっかけになると思うから。
5	ポイントがついてもいいと思います。その意味が大事だと思います。
6	ボランティア自身のやりがいに繋がっているのであれば気にしない
7	制度設計がしっかりしていれば
8	しょせん、制度名です。
<全く気にならない>	
1	特に気にならない
<よくわからない>	
1	しくみの名称なのでどうでもいいという思いと、制度に組み込まれたボランティアか～という思いと、みんなポイント好きだな～という思いがあります。
2	使ったことがないので、具体的な場面がよくわからない。
3	最近はポイントばやりなのかもしれない。
4	ポイント制度とは、何、どうしたいの。

(7) 「有償ボランティア」について

「とても／少しモヤモヤする」の回答者は、言葉そのものに対する矛盾か、言葉を使う側への不信感から回答。

「どちらかと言えば／全く気にならない」では、多様性の時代、依頼側が選択できる、「ボランティア＝無償」との考えは固定観念、などの自由記述があった。



【回答ごとのコメント】

<とてもモヤモヤする>	
1	そもそもこの言葉が必要かという気がします。私がかかわる学生からすれば交通費や活動中の食事等を支援していただけると助かります。また、どうしても何かお礼をしたいなどで、寸志を渡される場所もあると思います。どちらかというとなんかお金を払うべきものに、そのお金が用意できていないから、お金にはいたらないが対価を渡しているという言葉として使われている気がしますので、そういう意味で非常にモヤモヤします。
2	とてもモヤモヤしていますが、以前に比べると若干モヤモヤ感が薄らいでいるようにも感じます。自分は「有償ボランティア」と使わないが、そのように表現する人に対して残念に思う程度に変化し

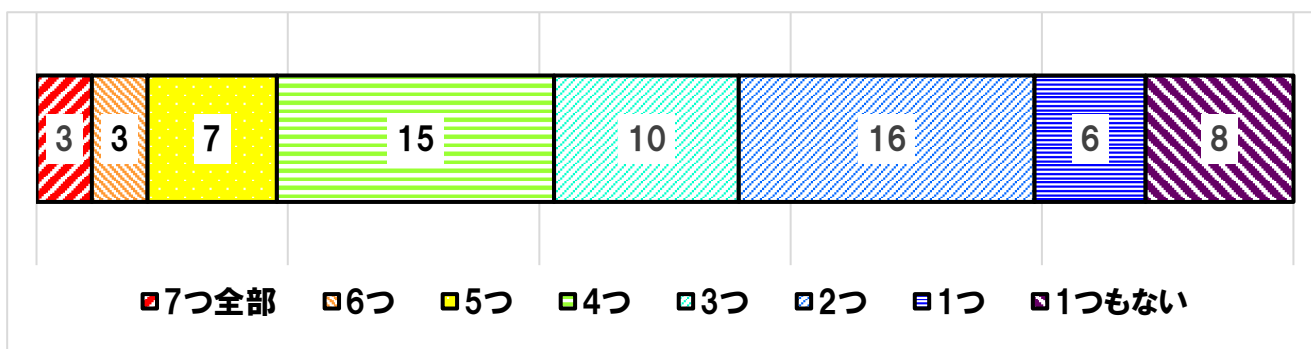
	てきた。ボランティアの無償性を理解しつつ、敢えて「有償」と使う人もいて、「有償」と使うな、使わない方が良くと言えない自分があるので、より手ごわい課題だと思います。
3	中間支援組織に長きに渡って従事してきた中で、この言葉が一番モヤモヤしている。そもそも有償と無償性を意味合いをもつボランティア活動に、相反する言葉をつけて、ひとつの呼称としようとしている動きに対して、とても違和感を感じている。さわやか福祉財団をはじめ、各広域の中間支援組織が、実費弁償の取扱いを整理してきた経緯もあるが、そのこととは違うと思う。
4	そもそもボランティアの原則に無償性がある以上、きわめて矛盾した表現であると捉えています。有償ボランティアと労働の境界線を検定テキストでも整理されておられ、その概念は理解していますが、有償ボランティアという表現は、ボランティアを都合よく利用したり、安価な労働力とすることを助長しかねない表現であると考えています。
5	昔、福祉施設が、安価な人材として「有償ボラ」と使われるようになったと聞いています。その人を大事にされるのなら、安価でも雇うべきです。私達も、福祉施設や障害者との付き合いもありますが、有償ボランティアと言われるのは嫌です。もし、交通費、食費、材料が必要なら、経費はいただく事で良いと思います。
6	1と同じく、語義矛盾だと思います。有償活動は全然いいんですが、なぜそこに「ボランティア」をくっつけるのか疑問です。すでに一般化してしまっていますが…。最近、社協の広報紙でも普通に見かけるようになったのでびっくりしています。
7	非営利有償活動ではなく有償ボランティアが日本語として定着してしまっているため、言葉の使い方を変化させるとするのはとても難しく、矛盾した意味を持つこの言葉の扱いにはもやもやする。
8	個人的には、以前に比べるとその言葉を使う人が少なくなったように感じているためか、言葉に対する違和感は変わりませんが、前ほど気にはならなくなっている気はします。
9	ボランティア活動に対してお金が発生することが多くなっている。受けとるつもりがない人も受け取らざる得ない状況になってたりする。
10	そもそも、活動に対してお金が発生するのはボランティアですか？未だにこの言葉が使われていることに違和感がある。
11	「有償」と「ボランティア」は 結びつかないと思います。極端な例ですが「平和な戦争」がありえないように。
12	ボランティア活動において、いろいろなケースがあると思うが、わざわざ「有償」をつける必要があるのか疑問
13	有償であればボランティアではないから。(ボランティア参加者への支援のあり方として楽なのは理解する。)
14	深く考えないで使っている人が多いです。人によって捉え方も違うので、慎重になるべきだと思います。
15	有償にも程度があるが、最近はアルバイトと同じくらいなものがあり、一緒に語られることに抵抗がある
16	有償とボランティアを一つの言葉にするのは概念として矛盾するため(成り立たない言葉)。
17	ボランティアの原則に有償は合わないため。ただし、使いたい気持ちは理解できる。
18	「有償」と「ボランティア」は矛盾するから。「黒い白馬」みたいな感じ。
19	ボランティアを安価で体のいい労働力として見ているように思うため。
20	交通費をもらえなければやらないボランティアなら来なくていい。
21	有償とボランティアが同居できる言葉なのか、理解ができません。

22	ボランティア=無償(報酬が発生しない)という認識なので
23	そもそもボランティアは無償との認識があるので。
24	ボランティア活動に有償はあり得ない。
25	バイトとどう違うの?って思うので
26	ボランティアの原則に反するから
27	気にはなるが便利な言葉ではある
28	矛盾する言葉だから
<すこしモヤモヤする>	
1	「有償」の言葉を使っている人はあまり突き詰めていないし、使用に否定的な立場をとっている側も吟味が足りないように思います。 「時間や労力は無償で提供するけどお金が発生するところは有償で活動させていただきます」という活動スタイルを平易な言葉で表したいときは何と言ったらよいか、逆に知りたいところです。
2	なかなかこの問題は、根が深いけど、でもいまどきは、そうしないといけないと思う。有償性、報酬制はなければ継続しない、全くの無償ボランティアだけで全てはまわらない。有償ボランティアに変わることはあればよいのだけど。
3	今現在の有償ボランティアの活動自体にもやもやすというより、あえてこの名称で表すことによりやや線引を感じる 無償性へのアンサーなのかもしれないが、
4	本来の意味をちょっと外れてしまう気がするから。無償の自発的な行動であるがゆえに、その可能性や広がりを生み出す素晴らしい活動がボランティアのはずと思うから
5	事情をわかった上で使うのであれば良いと思うが、とりあえずお金が絡めば「有償ボランティア」と発する人や、最低賃金より安価な場合に使う人がいるから。
6	制度として認めてきた団体等があるので、しょうがないと感じる。でも本来はおかしいと思う。「ボランティア」という言葉を使わないほうがよいと感じる。
7	有償の金額や中身にもよりますが、今では交通費実費、食事実費などが当たり前になっているから。
8	なんか、いつの間にかまかり通っているこの言葉・・・それでいいのか?と思う。
9	モヤモヤはするが、適切な表現の仕方が難しいのでいつも困ります。
10	無償性・無給性がボランティアの原則のひとつであるため。
11	お金が発生するボランティア活動の名前を有償かえる
12	有償の、無償性の活動はモヤモヤします。
13	ボランティアは無償では?
<どちらかという気にならない>	
1	交流人口を増やすためにその地域でのボランティアに参加してくれた地域外の人へ、お礼の印としてポイントを付与するのも一つの有償ボランティアだと思うが、感謝のしるしとして何らかのものを渡すことでお互い心が安らかになるのであれば認めたい。ただ「有償」の受け止め方は人それぞれであるので、合意形成は難しいかもしれない。弁当をもらっても、当然と思うか、弁当代という有償活動と思うかなど、「有償ボラ」の定義や範囲が定まっていないため、「有償での社会参加活動」とか新しい用語を充てるほうが無難かもしれない。
2	ボランティア活動は簡単に言うと、行くのも休むのも自由であるが、生命に関わるボランティア活動はそんな無責任なことは困るので、きちんと責任を持ってもらうという意味でも有償は有りだと思っています。 逆に、ボランティアは使い勝手のいい安い労働力と思う愚かな組織や団体もあるので困る。

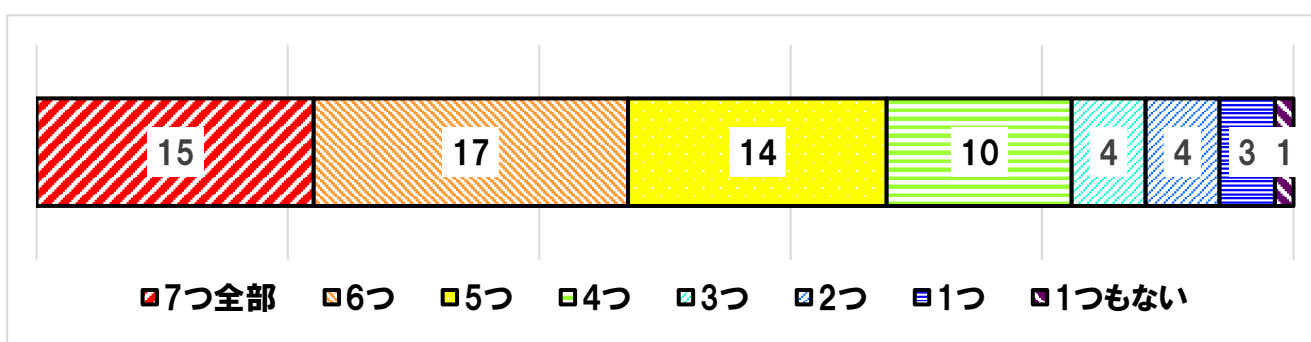
3	多様性の時代に ボランティアに依頼したい人が 事情に合わせて選んでいけるということだと理解している。
4	有償の考えについてはこれまでも様々な場で検討されてきたから
5	有償ボランティアが生まれたプロセスを知っているから。
6	有償の内容がしっかりしていれば
7	そういう活動もあると思う
<全く気にならない>	
1	僕自身は関わる際の有償・無償は関係ないです。お土産をもらうのも少し面倒なときがあるくらいです。ただ「やって当たり前」的な横柄な態度は、気が萎えます。自分が邪魔者かもしれないと感じてしまっって意欲的に関われないのも事実です。
2	行政が制度として取り入れていますし、「ボランティア＝無償」という考えは固定観念なのかもしれません。一定の対価がある活動について有償という表現を用いるのは、むしろ誤解を生まず適切だと思います。
3	有償でもボランティアは成立すると思うから。
<よくわからない>	
1	これだけ普及し、推進者がいるので、どうしても現状を批判する形に取られてしまう。個別のコミュニケーションのなかでは説明して訂正したい言葉だが、一方的に発信すればいい効果は生まれない。
2	私の言うボランティアで有れば、無償・有償は、関係ないのでは無いと思われれます。
3	此の言葉も 使わない方が良いと思う

4. 「7つの問い全体」への回答傾向

1) 「とても気になる」と答えた回答数



2) 「とても気になる」か「少し気になる」と答えた回答数



回答内容に関連する自由記述

【その他、ご意見】

<p>戦後から、様々な関わりがあった。</p> <p>ボランティアという言葉が、市民権を得たように思えたのは、阪神の震災の少し後からだったように思う。／学校教育でも福祉教育、人権教育等と、ボランティア活動にも関心が向けられた。／市民活動、そしてNPO法人化、企業の社会貢献等、様々な活動も出てきた。</p> <p>私達は、心を持ったボランティア活動と気を付けてきた。／何かがあった時、向こうの希望に添えるように、出来ることでして、相手に少しでも喜んでいただけて、こちらも良かったかなと思える活動をと仲間にも言い続けた。／子供さん達向けにも、心を伝えてきたつもりだ。1歩踏み出せる心を伝えてきたつもりだ。</p> <p>年齢を重ね、ボラ連は半年前に、ばらばらになった。・・・解散とはできなかった。</p> <p>この質問に、合わないかもしれないが、乳がんになり、幼児の玩具作りの材料で作った乳房パットを差し上げたら、喜ばれて、全国展開になった。一人でも困っている方にと、様々な地域や病院で、広めてくださいと無償で教えていた。癌になられた方達の心にも良かったようだ。ところが、教えた人が、実用新案特許を取られて、1時、講習できない状態になった。特許庁に相談し、私に関しては、又、講習できるようになった。</p> <p>後期高齢者となり限界も感じている。喜ばれているのであれば、教えた方達が、広めていってほしいと言っている。これも、ボランティア活動だ。</p>
<p>全般的に、もちろん言葉の字義は非常に大切だが、どういう意図でその言葉を使っているか？というその人の発言からくみ取れるその人の思いの方が気になる。</p> <p>子ども、障がい者と表記されるようになってきているが、漢字を使っているからといって、悪意があって使っているわけではなく、もちろん、不快を与える言葉を使ってはいけないが、単なる言葉狩りになって行くのではというほうが心配だと思っている。私がこどものころ普通に使われていた差別用語が知らぬうちに使われなくなってしまった。</p> <p>どういう意味を持った差別用語かわからないまま、聞かれなくなった。言葉をなくすのではなく、その言葉がどういう意味で使われ、どのように人を傷つけたのか？それを理解する教育がない方が私は大問題だと思っている。</p> <p>不快と思っているかどうかではなく、「この言葉はこう不快に取る人がいますよ」の啓発が重要だと思う。</p>
<p>「注意しましょう」とか「その表現は控えましょう」とか言うも良いが、実際にモヤモヤする表現を使っている人が恥をかく、損をするような状況にしていかないと、変わっていかない。やっぱり言われっぱなしの活動者側が、面と向かって No を突きつける、活動から撤退するなどの実力行使をしないとダメだと感じる。</p>
<p>ボランティアに限らず、ことばの使い方は本当に難しいと思う。場面によるが、本質的なところでコミュニケーションがとれていて、共有できているなら、細かいことを気にしすぎず、おおらかに対応できるといいと思う。</p>
<p>ボランティアを欲する側も、ボランティアをする側も、両方の意識が低いと感じる。ボランティアをすること、参加することの良さ、深さ、価値を、それとなく、しっかり伝えて行きたいと思う。</p>
<p>職場で上記の表現などに出くわしたとき、わりとこだわって説明しがちなのですが、正直かなり鬱陶しい存在だと思われる、と思います。</p>
<p>あらためてボランティアって？を自身で考える時間になりました。ありがとうございます。</p>

興味深い調査をありがとうございます。
「ボランティア」を美化しすぎ

5. まとめにかえて

モヤモヤを感じる回答率が多い表現（「よく分からない」を除いて比率を算出）を順に並べると、「ボランティア派遣」90%、「ボランティアの活用」89%、「有償ボランティア」80%、「ボランティアポイント制度」79%、「奉仕」71%、「慰問」67%、「ボランティア“さん”」50%。なお「慰問」は、「よく分からない」が16%もあった。ただし、上記は「モヤモヤする」立場からの比率で、「気にならない」回答者がかなり多い表現もある。表現の受け止め方には、かなり幅がある。

さらに、冒頭にお示ししたとおり、このアンケートの回答者はJVCA会員およびボランティアコーディネーション力検定1・2級合格者であり、一般の人々に質問したら、その回答傾向はかなり異なることが予想される。

今後、アンケートでモヤモヤ度が低かった表現は特に丁寧に論点を整理しつつ、それぞれの表現に代わる表現を提案し、ボランティア活動の価値が伝わる成果物をまとめたいと考えている。

最後に、多忙な中、本アンケート調査にご協力いただいた資金分配団体、実行団体の皆さまに、深く感謝いたします。ありがとうございました。

2024年6月2日

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会
ボランティア報道アクションチーム

<報道アクションチーム チームメンバー>

石黒建一(社会福祉事務所代表)、齋藤元気(大学ボランティアセンター ボランティアコーディネーター)、清水由子(生涯学習センター職員)、高橋義博(市民活動センタースタッフ)、竹脇恵美(博物館館長)、橋詰勝代(社会福祉協議会職員)、早瀬 昇(市民活動推進団体理事長)、疋田恵子(社会福祉協議会職員)